

美浦村総合教育会議

平成28年10月7日 開議

1. 出席委員

委員長	中島	栄
委員	山崎	満男
〃	小峯	健治
〃	栗山	秀樹
〃	浅野	千晶
〃	糸賀	正美

1. 本会議に職務のため出席した者

教育次長	堀越	文恵
学校教育課長	増尾	利治
生涯学習課長	埜口	哲雄
指導主事	田組	順和
総務課長	飯塚	尚央
総務課長補佐	吉原	克彦

○飯塚総務課長 改めておはようございます。

それでは定刻になりましたので、ただいまより、平成28年度、第1回美浦村総合教育会議を開会させていただきます。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項に基づきまして、公開で行わせていただきます。

なお、会議録を作成する都合上マイクを使用しての会議とさせていただきますので、よろしく願いをいたします。

本日の傍聴人でございますが、誰もいらっしゃらないということでございます。

それでは初めに中島村長よりご挨拶をお願いいたします。

○中島村長 それでは、改めまして皆さん、おはようございます。

28年度の第1回、美浦村総合教育会議ということで、今までは教育委員会と、行政首長のほうとは、分けて考えていたところですが、総合教育会議については、首長が教育のいろんな面で目標を策定するというようなことが、総合教育会議の中心部分だというふうに

思います。教育委員の皆さん、また教育長。美浦村の幼稚園、小学校中学校の教育に関して日ごろより、ご支援ご尽力をいただいておりますこと、この場を借りて、御礼を申し上げます。

今回の教育会議の中では、地域ぐるみで、まず、子供たちを育て上げるという部分。前からそうですが、なかなかそれが、希薄化してその状態でなく、個人的な部分で子育てが行われているというような部分が多くなってきた。さらに、行政も入って、全体的に子供たちを見守り、また社会で育つ、人間性も形成していこうということが一つあります。

そういう意味で、今回も教育委員のほうから、美浦村のほうの教育は、どうすべきかという意見もいただきながら、美浦村としての教育の基本的な部分も、取り入れていければなというふうに思います。

そういう意味で、今回、学校教育課のほうで作って頂いた取り組みが3つほど、皆さんの前にも、あろうかと思えますけれども、就学前の英語教育、これはですね、昨日あたりもテレビでやってましたけども、子供たちの幼児期の習熟度っていうものは、ものすごく大きなものがあります。

そういうことを、幼稚園とか保育所で、一つの遊びを通じて、簡単に英語を習得できる。

身構えないで話をするというようなことも踏まえて、幼児期が1番大事ではないのかなという考え方が今、よそでも、そういう、講師を取り入れての教育的な部分が始まってきているところでもあり、美浦も他所に遅れをとらない。教育委員さんの意見もいただきながら、美浦バージョンとして、立ち上げられれば、行政としても、議会のほうに諮りながら、支援をしてまいりたいと思います。

それから、子供の貧困それから家庭の中など、子供のしつけが、育て方がうまくいってないような家庭もございます。

そういうところも、行政が担わなくてはいけない。義務教育の範囲の中なんですけど、保護者ではなく、行政とか学校に押しつけをする部分が多々あります。

そういうことがないように、保護者の意識変革を求めていかななくてはならない部分もあるかと思えます。

それから、なかなか学校になじめない人については、今でもやっておりますけども、これをさらに延長して、訪問型家庭教育支援というふうなことも、取り入れていければ、自信を取り戻していただいて、同じ教室で友達と一緒に授業を受ける。

社会でどういうふうにして、自分が一員として、地域に貢献をしたり、家族を守ったりという部分の最低限のところを、子供たちに教えていかなければ、自立というものはできなくなってしまうという部分があるかと思えます。

是非そういうことも踏まえてですね、教育の基本的な部分、社会に出て自立できる部分をいかに、中学3年までの間に創り上げていくのか。

それにはやはり、先ほども言ったように、幼児期にその基本は出来るということだと思

います。

美浦村として1番重点を置きたいのは、幼児期の取り扱いをさらに充実させて、小学校中学校で先生方がある程度、手を加えなくても、子供の学習がスムーズに行くような部分を、美浦村の総合教育会議の中の基本方針として、立ち上げることができれば、他所にはない、一つの美浦村の教育というものが、示せて行けるのではないのかなというふうに思っております。

4月から糸賀教育長も美浦村に来ていただきましたし、糸賀教育長は教育畑専門ではないのですが、県のほうの各部局との連携は、1番強いパイプを持っているというふうに私も思っておりますので、これから美浦村としても、人口減少時代へ少子化に向かってですね、他市町村との違いを出せれば、美浦村の教育の良さが他所に伝わっていくことが、美浦村を見直してくれる、他市町村の親も、いるのではないのかなというふうに思っております。

村内には小学校が三つあるんですが、安中小学校、大谷、木原とあるんですが、小人数で、20人弱の安中小学校が、そこに出来たら通わせたいというような、他所の地区の保護者がいるというような話を聞いてございます。

是非30、40人弱の1クラスよりは、20人弱のほうがより先生との距離感、まだ、同じ触れ合うにしても、倍の時間が持てるんで、できたら、安中の学校に通わせたいんですがというような話も、あるというふうに聞いておりますので、その辺、先生個人個人の力量もあろうかと思いますが、どこの学校でも同じように、「美浦村の教育は変わりませんよ。」と、いうようなところも、人数にかかわらず、小人数であれ、3クラスあっても、そこは、教育として変わらない部分で美浦村は推移をしていく。

特に、美浦村の教育が見直されるという部分が、よそから見て、評価をいただけるというようになればというふうに思います。

つけ加えて、2020年からは、ICT教育が小中高と一緒に導入がされます。

そういう中で美浦の小学校4年生から6年生まではもう、7年目に入りますけども、ICTの事業は、率先してやってきたところなんですけど、この部分はよそにない。ICTの教育として、電子黒板も使用しながら、授業がスムーズに行っている。他所の市町村ではまだそこまで取り入れていないという部分は、美浦としては少し先を進んでいるのかなというふうには感じております。

ICTにお金をかけるから、成績が良いとか悪いとかではなく、そういう先に進んだ部分で余裕のある部分を、少し子供たちに目を向けていただきながら、先生と、子供たちの触れ合う時間をふやしていただければなというふうに考えております。

私のほうからのいろんな思いは沢山あるんですけども、教育委員の皆さんの、考えを基本にしながら、村としても、29年度の新たな予算に向けてですね、頑張ったいというふうに思っておりますので、教育委員の皆様方には、改めて、美浦村の教育に、ご尽

力いただきますことをお願い申し上げて、私のほうからの挨拶とさせていただきます。

今日はお忙しい中大変ご苦労さまでございます。

○飯塚総務課長 続きまして、糸賀教育長お願いいたします。

○糸賀教育長 改めまして本日は平成28年度第1回目となります、美浦村総合教育会議にご出席いただきまして、教育委員の皆さん本当にありがとうございます。日頃より、委員の皆様方には、教育の推進にご尽力を賜りまして、感謝申し上げる次第でございます。

今日の総合教育会議でございますが、皆さんご承知のとおり自治体の首長である美浦村でありましたら村長になりますが、村長と委員の皆様の意思疎通を図っていただいて、美浦村の教育に関する課題なりを共有していただいて、これを契機に、より一層美浦村の教育行政の推進に寄与いただければと思っております。

先ほど、村長から概略のお話がありましたが、本日は来年度の取り組み、新たな取り組みについての方向性を、お話しさせていただきます、そちらをメインにご意見を頂戴できればと思います。

本日はよろしくお願いいたします。

○飯塚総務課長 ありがとうございます。

本年度第1回目の会議でございますので、教育委員の皆様にも一言ずつご挨拶をいただければと思います。

○山崎委員 今日というか毎日125号線を通るわけですけども、今日も朝来るときに、見てもましたらば、あそこの交流館のところ、非常に大きい重機が入ってまして、多分、これは基礎をやっているんじゃないかなというような感じで、ほとんど毎日、どのような進展があんのかって、楽しみにしております。

多分29年度の4月から交流館ができるというような形になりますと、子供たちにとっても、一般の村民にとっても、この交流館が子供たちにとっては、特に放課後活動及び休み等の活動において、ここが中心になってくるのか公民館が中心になってくるのか。

いろんな場面において、どういうふうに区分けをしていくのか、そんなこと考えながら行くと、非常に楽しみに29年度を迎えられそうになっています。

これから29年度のことについての話は、これまでの28年度までの基礎に乗った、そしてそれから発展するというような形の話合いになるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○小峯委員 おはようございます。

先日美浦幼稚園の運動会で150人という、パワー溢れる園児と、園児の活躍を見て非常に、心強く思ったところです。

明日は保育所の運動会ですので、また、前回の美浦幼稚園にまさるとも劣らない、そのパワー。親と子の楽しい運動会が、見られるのではないかと期待しているところであります。

やはり幼児期に、いかにすばらしい体験を与えるか、感動を与えるか。そして、能力を付与できるか。

ここにまさに勝負がかかっていると思ひまして、中島村長のご指摘のとおりでありまして、3歳までにいかに、するか、そして、6歳までにどのぐらい付与できるかで、それ以降の人生が変わるとまで、今わかってきています。

そういう中で、特に能力開発という点では、ゲームの中に、そうした能力開発があるということで、東大のほうでは、10年以上前から囲碁と将棋の、このゲームを通しての能力開発の研究が進んでおりまして、将棋につきましては、もう何年も前に中国が取り入れているというようなところもあります。

そうしたさまざまな科学的な実証を得た内容、この教育活動、あるいは遊びの活動の中に取り入れていければ、もっともっと美浦の子供たちが、元気になるのかなと思っております、本日のいろいろな施策、あるいは意見交換に、期待しているところであります。

よろしく願いいたします。

○浅野委員 おはようございます。

1期目の教育委員の仕事がそろそろ終わりになって、遅ればせながら、ようやくなんかいろんな事が判って来たかなと思っているところです。

本来ならば、若い方に席をお譲りしてお願いしようかなと思っていたんですけども、折角少し判って来たところなので、また、2期目をさせていただくことになりまして、私自身は35年になりますけれども、私塾をやりながら美浦村の小中学校、学生をずっと拝見してきたわけですが、どんなにノウハウや、テクノロジーが発達しても、やっぱり人が人を育てるということには、どんなに立派なマニュアルがあっても、やっぱりそれが人から人に伝わるということ、とても実感しているところなので、今後、美浦のすばらしい教育がもっと外にアピールする機会があつて、若い方が、美浦村で子育てしたいわと思っただけのいいなと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

○栗山委員 おはようございます。

私も浅野委員と同じく4年の任期を終えてまた、次の任期もお受けさせていただくことになりました。

またよろしく願いいたします。

この秋はちょっと農家さんにしろ、運動会を控えた学校の先生にしろ、非常に天気に気を揉む秋となったんですけども、私自身も個人的に米を手刈りで刈って、おだげしたんですけども、それがちゃんと乾くかちょっと心配で色々不安な所はあります。

お米の育て方もそうですけども、先ほど浅野委員からも、機械化が進むところがあつてもやっぱりその基礎というか、何でそうなつてゐるかっていう仕組みを知るのはすごく必要だなと思ひながら、おだげの作業をやったりしておりました。

総合教育の課を跨いでいろんなお話をさせていただく場ってというのは非常にありがたいと思いますので、今日はいろんな意見を交換させていただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○飯塚総務課長 事務局の紹介ということで私のほうから皆さんご存じのとおりですが、改めてご紹介をさせていただきます。

初めに堀越教育次長。

増尾学校教育課長。

埜口生涯学習課長。

田組指導室長。

総務課課長補佐吉原、私くし総務課飯塚でございます。

よろしくをお願いいたします。

では、先ほどの村長のあいさつの中で新たな取り組み等のお話をいただいたところですが、本日の会議、協議に先立ちまして村長より、改めてお話がございましたらお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

○中島村長 美浦の中でライオンズクラブというのがありまして、このライオンズクラブで今回、ライオンズクエストというものを、学校の先生方をお願いして、大谷小学校と美浦中学校がそれを受け入れてくれて、大谷小学校のほうからのデータは、もう上がってきたところですが、これに関しては、まず先生方が子供たちに何をどのようにして教えてあげるか。

学力は頭の中で覚えたり理解したり、考えたりすることに対して、子供たちに我慢とか、けじめ、積極性、また、それに対して、自分自身でコントロールする能力も持ち合わせたりして、また挨拶とか思いやりとかコミュニケーションをとるということが、一つ、人間性としての行動として、大事な部分ですよということで、ライオンズクラブが今年、学校全体にお願いをしようという話をした中で、大谷小学校と美浦中学校だけが応じていただいた。今、先生方は、自分たちの1年間のスケジュールの中で、なかなかそういう、余分な部分の調査とか、そういうことに対しては、できるだけ避けたいというような、話が学校のほうから来て、ライオンズがお金を出しながら講師を呼んで、そういうライオンズクエストの先生たちと子供たちの、講師を呼んで、先生たちにも聞いてもらうということをした結果、大谷小学校と美浦中学校が、それに講師を呼んだ中で、聞いていただいたということは、やはり、教師としてのカリキュラムの自分の時間だけが目一杯で、よそのものは受け入れない、受け入れられないというような、余裕のなさの中では、良い子供たちの教育も出来ないというふうに思っておりますので、今回、美浦の中では、講師の費用はライオンズでもった部分で、参加していただいたってというのは、少し先生方も、余裕も持ってそういう、講師の話を入れながら、子供たちの教育にも関わっていただけるっていうところが、できたんで、美浦としては、うれしいことだな。

県内いろんなところでライオンズクラブが沢山あるんですけども、美浦はこのライオンズクエストに関して、去年、県内でも1番積極的に推進している。

ライオンズクラブというふうにも他所からも見られておりますので、是非これは、単年度だけではなくですね、来年度また、新たに美浦村に赴任してくださる先生がたもいるかと思えます。

そういう意味で、違う目線で講師が来て、子供たちとの関わり、そういう何をどのようにして教えるか、思いやり、コミュニケーションのとり方も含めて違う目線で、先生と生徒の立ち位置の部分を、改めてこう、聞いてくださるっていうのは、先生方にも余裕がないとなかなかできない部分なんで、是非、美浦村のほうからも、また、教育長教育委員のほうからもですね、各学校いろんなところに、事業の視察参加も含めてお願いをしているところなんですけど、先生一人一人みんな、余裕度が違うかと思えますけども、今言ったような、ある程度、授業以外の子供一人ひとりの、今の精神状態とか余裕とか、その辺も、見定める事ができながら、授業を進められるというふうなことは、いいのかなというふうに思うんで、学校の教育のその流れだけのほかに、違う意見のものも考えながら、余裕をもったの事業を、していただけるっていうことは、いいことだろうというふうに思えますので、それに対する講師料は今年も、今年度も、もし受けてくれる、学校があれば、ライオンズのほうで講師の費用は出すということで、中学校までのデータが来ましたら、教育委員さんにも、大谷小学校と中学校のほうの、講師を交えてやって、データをお渡しできるかなというふうに思えますので、ぜひ余裕を持つ教育をしてくれる先生がいれば、子供も余裕を持って受け入れてくれるっていうふうにもなるのではないのかなというふうに思えますので、その辺も含めて、村の事業にはない部分なんですけど、それも一つ、今年の視野に入れていただければ、うれしいかなというふうには思えます。

それから、今年の教育予算、あとは、これについては、次長のほうからですね。

課長のほうからですか、いろいろと説明をいただきながら、予算の執行について、議会のほうに説明をしながら、獲得はほぼ100%大丈夫だと思いますけども、それから新たな取り組みについても、是非教育委員さんのほうにいろんな意見をいただいて、是非今回は、就学前の教育と美浦未来塾と、訪問型家庭教育支援というふうな部分がありますけれども、その辺も踏まえて、十分ご意見等をいただいた上で、修正できるものは修正し、また、加えるべきものがあれば、そこに加えて、来年度の実施に向けていきたいというふうを考えておりますので、よろしく願いをいたします。

○飯塚総務課長 はい、ありがとうございます。

次に第三の協議事項に入らせていただきます。

進行につきましては、美浦村総合教育会議運営要綱に基づきまして村長に会議の議長となつていただきまして進めさせていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

○中島村長 それでは早速、協議事項に入りたいと思います。

まず（１）の平成29年度教育関連事業等について、教育長から説明をいただきたいと思
います。

○糸賀教育長 協議事項の1番目になります。

平成29年度教育関連事業等について、ご説明させていただきます。

手元に、A4横のこちらの資料、平成29年度に向けた新たな取り組みというものと、28
年度教育費予算という資料が手元に配らせていただいております。

こちらの28年度の教育予算のほうにつきましては、定例教育委員会の際にも、説明させ
ていただいている内容でございますので、こちらについては、後でご意見をいただければ
と思っております。

私のほうからは、まずこちらの1枚の資料ですね、平成29年度に向けた新たな取り組み
という資料基に説明させていただきます。

来年度に向けた新たな取り組みの柱としまして、今三つほど考えております。

一つが、就学前の英語教育ということで、目的にございますけれども、幼稚園と保育所
の子供たちに対して、外国語の講師による遊びなどを通して、英語のレッスンを行いま
して、英語に対する親しみを醸成すると、これから英語教育というのは、当然ながら小学
校でも始まっておりますけれども、ますます重要になってくると思っておりますので、今のこの段
階からなるべく英語に対するアレルギーといえますか、そういったものがないような状況
で、ここで楽しみながら英語学んでもらえればなど、考えております。

二つ目になりますが、美浦未来塾ということで、こちらにつきましては目的にございま
すけれども、家庭での教育が困難、各種学習習慣が十分に身につけていない。いわゆる学習
が遅れがちな生徒に対しまして、学習支援を実施して学習習慣の把握リスト、基礎学力の
定着を図っていくというもので考えてございます。

三つ目になりますが、訪問型家庭教育支援ということで、子育てについての悩みである
とか不安を抱えて、孤立しがちな家庭に対して、相談支援を通じて、イメージとしては訪
問する、支援チームというようなものを作って、地域とのつながりや保護者との教育力を
高めていくと。

これまで福祉サイドでサポートして来たところとか、いわゆる、教育サイドでサポート
してきたところが、こういった家庭にあります。教育と福祉の融合といえますか、そこ
に連携を持たせていって、横のつながりを強めていくと。

横に軸を通すということで、大変な家庭を支援していけたらなど考えてございます。

私からの説明は以上でございます。

○中島村長 今、教育長のほうからですね、29年度の教育関連事業の、三つの取り組みの
部分を、説明いただきました。

今年の目的はこういうことで、実践していきたいということでございますので、まず三

と一緒にではなく、就学前の英語教育について、いろんな意見をいただきながら、来年度4月からの実践に向けてですね、取り組みをしてみたいというふうに思っております。

これについても予算はまだ、どのぐらいの規模になるのか、ちょっとまだつかめていませんので、早目にこういうものを決めていただいた中で、来年度の予算とそれから、幼稚園と保育所、小学校よりは、ちょっと時間的な余裕はあるかと思うんで、それがうまくいった後に、小学低学年あわせて、そういう部分で幼稚園で終わってしまうじゃなくて、小学校も今度英語教育始まりますので、低学年はおろそかになってしまってもしょうがないんで、その後、美浦村独自に低学年も延長していけるような、将来的に見て、できるようになれば、当然、文科省で小学校3年生からの英語教育。1、2年が空白で、幼稚園で幾らやっても、保育所でやっても、小学1、2年が空白で空いてしまうと、そこも、何とか埋めていけば、小学校3年生から始まったときに、英語のアレルギーが少なく、すんなり入っていける部分が、基礎ができるかなというふうに思いますので、まずは就学前の子の幼稚園と保育所における部分で、ご意見をいただければというふうに思います。

○山崎委員 田組先生のほうにお伺いしたいんですが、就学前なので、就学後の英語教育について、今の現段階の現状をお知らせしていただければ。

○田組室長 はい、まず、英語教育のほうなんですけど、新学習指導要領の実施が32年度からということで、5、6年生が結局、英語教科としての英語、3、4年生が、今やっている英語活動というようなことで、32年度からということになっています。

現在、うちのほうの村では、結局、英語教科としての英語になると週2時間というような6年生では扱いにもなってくるんですけど。

結局、うちのほうの村としては、外国語活動ということで、ALTのほうを来ていただいて、前から継続してやっているという状況なので、それを継続してやっていくことになっていくのかなと思っています。

ですので、前倒しでやるというよりは、32年度に向けて、完全実施に向けて、英語を実施していくということになると思います。

○山崎委員 聞きたいのは、小学校の1年生から4年生まではどういうふうな形で今やっているか。

○田組室長 週1回程度、ALTと担任と一緒に英語活動ということで、ゲームをやったりとか、そういったような活動をやってるというのが現状です。

○山崎委員 ということは、就学後はもう実際にやっている。

そうすると就学前に関しては、どういうような形でやっていくかっていうのが、やるやらないは、賛成と反対になっていくと思うんですが、もし賛成でやるというふうになった場合は、スムーズに、この就学前英語教育が入れるかどうか。そのための準備としての予算的なものまで全部入れた場合にできるかどうか。だと思っただけですね、それはやはりここで、ぜひやりましょうという形をとらないと、その先は進めないということなのかなと思

うんですが、それに関しては、これは村長さんと、あとは現場担当との形になると思うんですが、その点はいかがでしょうか。

○田組室長 その前に一つなんですが、現在も保育園と幼稚園も月1回、英語活動ということでやっていただいているんですね、そういった活動で結局、月1回で幼稚園の場合はクラスの関係もあって年長児、保育園のほうは人数が少ないので年中児と年少児ということで、その活動の様子も、実際この間の教育長のほうも見に行ってください、すごく子供たちが楽しく活動していると。

それをだから、今度時数をもうちょっとというか、1日張りつけて結局そこで1日一緒に生活してもらいながら、だから今小学校にいるALTと同じような形で1日そこで活動してやってもらえればなというふうに、現場サイドの実践の部分では、そういった部分ではもう入っている部分なので、スムーズに入っていける部分はあるのかな。

あとやっぱり1番は、先ほどおっしゃったように人の部分になってくるので、やっぱり行き当たりばっかりでも困るので、やっぱりある程度カリキュラム、そこら辺のところはしっかり詰めて、そのような形で継続的なものでやっていってもらえるようなことに関しては、しっかり見ていきたいなと思っています。

○山崎委員 となると、やるとなった場合に、ここで賛成反対やるという形を決めていいものかと。

これは、結局、現場サイドのほうの意見を聞いた後決めるのか。

要するに今もやってるんですけども、継続をして、より充実したものにしたいんだけど、現場のほうはどうでしょうかという、それを聞いてからにした方がいいのかどうか。

そういうなところをいわゆる微妙なニュアンスになると思うんですが、そういう点では、どうでしょうか。

○田組室長 正式にという形ではないんですが、園長先生教頭先生に聞いている部分というと、現場サイドもやっぱり、そういう形でやってもらえるのであればというような話は聞いています。

○山崎委員 現状等聞きました。私としては、そこまで詰めてある。そして、この先1年生が小学校に入っても、幼稚園の方でも受け入れ態勢が出来ているというような判断をいたしますので、そういう点では今聞いたので、安心はしています。

○中島村長 小峯教育委員

○小峯委員 やはり就学前英語教育というのは、重要だと考えています。

特にALTのような形での、その時間で入るのではなくて、1日の中で、保育所2カ所なり、あるいは幼稚園1日なり、そういうカリキュラムを組んで、子供たちとしっかりと接していく、そういう取り組みができるような体制のほうが、これは絶対成果が上がると思っていますので、今、田組室長のほうから人の部分という話がありましたけど、まさに子供と講師との、その人間性が、ここで生まれれば、子供たちにとっては素晴らしい教育

の場になると思います。

ぜひそういう人発掘して、来年、この就学前英語教育が、美浦村に定着するように、希望しています。

特に、こうした就学前の英語教育を希望する保護者も、かなりいると聞いておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

○中島村長 それでは、浅野教育委員。

○浅野委員 ちょっとご質問ですけども、ALTという方って、個人の力量とか、そういったものは、カリキュラムとか、そういう、あれはどうなんですか決められたものが持っていていらっしゃるのか、ノウハウについて、その、先生任せなのかその辺はどうということでしょうか。

○田組室長 はい、本村の場合だと、ある会社のほうに委託している部分が、ALTにはありますので、実際のところはそこのカリキュラムも、結局、向こうの担当者と詰めて、実際実施していつてもらっているということになっています。ですので、当然、結局、実は昨年度、ちょっと自分もわからないんですが、やはりちょっと余りちょっと評判が、その日本語のほうの理解があんまりちょっとよくできていらっしゃらない方で、ちょっと評判がよくなかったってということもあったようで、今年、変えていただいて、結局自分たちのほうも授業を見させていただきまますし、会社のほうも見に来ていて、現場のほうからも評価を学期ごとに上げてもらっていて、今回なんかもすごく非常にいい評価なので、逆に言うと会社は、ある程度挟むという利点は結局、そうじゃないときに人材を変えてもらえるっていう、利点はすごくあるのかなと思っています。

ですので、そのカリキュラムについては、幼稚園のほうでも、実際に、石岡のほうの視察も行ったんですけど、やっぱりその、すごく楽しく活動していて、すごくテンション高くやっていただいているんですが、やっぱりカリキュラムに基づいてやっている部分というのが大事になってくると思うので、この後、英語科強化ということで、5、6年生で入ってくるので、やはりそのカリキュラムっていう部分というのは本当に必要になってくるのかなっていう気がしています。

ですので、そういった形で実施しています。

○浅野委員 会社に委託してるということで、例えば美浦村で、直接私は存じ上げませんが、やはり私のように美浦村でずっと英語教育をしてらっしゃる民間の先生とか、そういった民間の力を取り入れるような、ALTの先生変わりますよね。

そういうふうによくするために変わる場合もあるし先生の都合でね、帰国されるとかいうことで変わることもあるんですけども、現にその民間でそうやって長い間教育するってことには相当な力量がないと、なかなか続いていかないと思うので、そういった方を、美浦村なので、ならではということ、取り入れるような考えというのはないでしょうか。

○田組室長 そういった方たちのご協力ということも当然必要にはなってくると思うんです

が、ただ一つ大事なのが、結局英語ということと、やっぱり外国の文化っていう部分も正直あるのかなと思っています。

ですので、やっぱり、本当に失礼な言い方になるんですが、外国人の人がやってくさるのと、やはり、日本人の方が英語を楽しく活動する部分とでは、例えばその教科として深めていくとか、教科として教えてもらうっていう部分とはちょっとやっぱり別な、その外国としての文化っていう部分も間違いなく、就学前でやったりとか、1，2年生の活動の部分では、必要になってくる部分というのもあるのかなと。

これは、あくまでも自分の個人的な意見なんですが、思っています。

ですので、そういった当然地元にある人材の方たちのお力っていうのを借りながらというところももちろんだと思うんですけど。

○浅野委員 私のつたない経験ですけれども、やっぱり幼児の、小さいときから英会話に通わせるとかね、そういったご希望のお母様方、保護者の方々が、何を本当に希望しているかという、やはり中学生になったときに、英語ができてほしいというのが本音だと思うんですね、日本に居て、英語が流暢に話せたりっていうのも憧れでありますけど、実生活でね、会社とか、大手の会社に勤めるにはね、英語が必要ということでもありますけれども、やはりこう、保護者の方々を見ていると、あんなにちっちゃい頃から英語に通わせてたのに、ちっとも英語が出来ないじゃないか。

こういうことも、やはりニーズの中にはありますので、就学前から英語教育に取り組んでますよ。村としての、アピールのポイントではありますけれども、どうなのかな。そのやっぱり、じゃ、それで美浦中の英語の教育の成果が上がったっていうこともないと。空看板になってしまわないかなということも二つの目線で考えていただきたいなというふうに思うんですけどもなかなか難しいと思うんですけど、やはり、それで美浦中の英語すごいんだってところやっぱり結びつけないと、本当のアピールにはならないんじゃないかなというふうにちょっと感じるんです。

○中島村長 浅野教育委員のほうからもね、自分の経験から、最終的には英語の、要するに、学力がどれだけ上がるかという部分も、あるかと思うんですけども、英語のところで、私らも中学校からやったんだけど、それほどのなじみ的な部分がないし、通常余り使わないんですが、でも、ここ10年、15年ぐらい前から、ものすごく横文字が多くなって、新たにコミュニケーションなったらもう日本語と同じ意味なんですけど、色々ね、オートファジーなんてこの前もね、大隅さんがね、あれも、そういうのは横文字で来たときに、何だろうって理解できない。

ただそれは何ですかって質問をすることも、なかなか英語を使ってないとできないんですけども、でも、通常、英会話がある程度こう日常のある程度簡単な英会話ができれば、それはもう、わからないことは、相手に質問をしたり、引き出したりすることができるんで、まずはアレルギーにならないような英語が、横文字で来ても、アレルギーを持たない

ような、体質というかそういう環境を作っておいて、多分ある程度の年齢になれば、海外旅行に行って2日目位になると、大体、片言のgood morningとかね、good afternoonのそれぐらいの日常の挨拶ぐらいは、出来ない。いろんな観光していても、何もできないんですね。

ですから、本来であれば、向うに入ってしまったら、日本語が全然つながってないんで、英語でしかないんですね、やっぱりそういう経験をすると、確かにそれぞれの国の文化があるんですが、そこに行けば、その言葉を話さないと、通用できない。

昔は日本人はね、そろそろそろそろ旗を持った人の後を歩っていましたけど、今は1人でも少人数でも、安心な国は安心できるんで行って、いろんな経験をできるっていうのは、やはり現地が1番いいんですけども、まずはその英語部分に入るときに、臆せず、身構えしないで、さっと入れるような環境が小さいときに出来れば、英語教育受けたときに、先生にも、ALTにも質問をしたり、何にかすることも、日本語で普通はできるんですけども、本来であれば、英語で質問して英語で答えが帰ってきて、それはどういう意味ですかっていうことも、全部そこで英語でできるようなれば、もう通常の会話は成立できるんじゃないのかなと思うんで、成績も大事なんですけども、まずは小さいときの、就学前は、簡単に、そこに入るようなものが、できる部分を、まずつくるかどうかだと私も、そこにだったら、やってみても、よそでも成果が上がっているという部分がありますから、浅野教育委員の話もぜひできたら、浅野教育委員さんの地元の方の、そういう部分は、例えば、3年生4年生とか、そういう部分で、やっても、今度は日本語で間に入って日本人が話しても理解はものすごくできるんじゃないのかなというふうに思いますので、ぜひそこはもっと手厚く、幼児期に教えた部分と、そこから離れないでずっと継続して、中学卒業するまでは美浦の中で、英語で話かけられても十分理解をして、話が返せるよっていう環境ができれば、村なのに少しはちょっと取り組みが違うかなっていうふうには見えてくる部分もあるかなというふうに思いますんで、その辺はいろんな意見をいただいて、もっと層を厚くしていければというふうには思っています。

○浅野委員 今のお話よくわかりますので、幼児期に広く、そのネイティブな方と接して行くことが大事なので、ぜひそれを、例えば、小中の高学年から中学生に向けて、例えば英語合宿をやるか、何かちょっとそういった、実力をつけるようなほうにも結びつけて、つながっていくように考えていただけたらと思います。

○中島村長 みほちゃん塾っていうのを今年からやったんですけども、違うところですね、学校でもいいと思うんですよ。一晩、泊まってそういうことも、是非、指導して下さる方が何人かいれば、1人で10人も20人もって言うわけにはいきませんので、大体グループで、4人位に1人位の講師的な方が居て下さるとより、いろんな話の進め方ができるんじゃないのかなと思いますので、ぜひ浅野教育委員のそういう提案を出していただいて、新たなカリキュラムの中に入れ込めれば、いいかなというふうに思います。

ぜひ新たな部分で、その提案も村としてはすばらしい環境づくりなるというふうに思いますから、ぜひ、そういう教えてくださる方と、どのぐらいの場所と時間と、も含めて、提案をしていただければなというふうに思います。

あと、栗山教育委員のほうから、今のことについて、就学前の部分について。

○栗山委員 私も浅野委員と同意見で、民間の力を活用していただければと思います。

うちの地区にも、つくばの研究所で働いていらっしゃって、今は、自宅でネットの仕事がされていて、塾はやってないですけども、ロコミで何人か習いに来ている方とかいらっしゃいます。

その方イギリス人の方なんですけども、そういった方も、人材としては、埋没しているというか、目に見えないそういった人材もいらっしゃるので、そういった人も、活用していただけたらと思います。

A L Tの先生方とか、やはり、どうしても初めてやることなので、費用対効果というか、ある程度その、限られた財政の中でやっていく事業になるかなと思いますので、その辺を見直しをしながら、進めることには賛成ですので、そういったものをちょっと精査しながら進めていただけたらと思っております。

○中島村長 山崎教育委員から栗山教育委員まで、いろいろご意見をいただきましたけども、教育長のほうに最後まとめをよろしくお願いします。

○糸賀教育長 就学前英語教育の話ですが、私も実際教えている現場のほうを2回ほど見に行きました。

1回は美浦幼稚園でやっているところで、その英語の先生はネイティブの方で、ちゃんとカリキュラムをその都度つくって、年間計画を作った上でやっていただいているんで、そういったところは間違いないのかなと思います。

あと、1日ですね、その先生が言うには、年少年中年長ってありますが、年長については通常の、ある程度の授業が可能かと思うんですが、小さい子供たちに対しては実際そういったことを、可能なんですかという話を聞きましたらば、やはり1日、幼稚園ないし保育所に居させてもらえれば、いろんな遊びの中で、英語を使いながら、教えていけると。

いわゆる授業形式でなくてですね、小さい子供たちについてもそういったやり方で英語教育を十分やっていくことは可能ですというようなお話いただきました。

今各委員の皆様からのご意見いただきましたので、そういったところを踏まえて、今後は予算要求に向けて、具体的な中身というところをつくっていきたいと思います。

ありがとうございました。

○中島村長 予算要求をとということで、教育長のほうからありましたけども、予算要求について、次長、早速、それに向けて対応、マイクを向けますので、

○堀越教育次長 はい、今ですね、いろんな意見をいただいた中で、そういうもの取り入れながら、具体的に、こういった形で出来るのか、予算の制限もございしますが、積極的

に出来るように、努力してまいりたいと思いますので、これからも何かありましたら、この英語教育についてご意見をいただきたいとお願いいたします。

よろしくお願ひいたします。

○中島村長 はい。

それでは今、次長のほうからもですね、来年度に向けて、予算化に向けたものでちょっと早目に、金額等のほうも把握しながら、来年度予算に載せていきたいというふうに思っているということでございますので、是非来年度4月から、就学前の幼児の、英語教育ということで、新たに美浦村の新年度の部分、議会に説明しながら、進めてまいりたいというふうに思います。

これについては、皆さんの合意の中でということよろしいでしょうか。

それでは、二つ目のですね、美浦未来塾についてということで、これは中学生を対象に学習支援をってということで、今年社会福祉協議会でやったのは中学生ではなく小学生も入れた、みほちゃん広場という部分で、初年度やりましたけども、結構応募が募集人数より多くて、福祉センターとそれから信太の公民館というところ2カ所で、それぞれ荷なっただけで協力者もおりましたので、来年度も実施をしていきたいというふうには思っております。

そういうことで、ここでは中学生を対象にということでございますので、その辺も踏まえて、これも山崎委員のほうからまず話を聞かしていただければと思います。

○山崎委員 今年やったみほちゃんのところの名前とこれ全く違う形ですよ。

となると、結局、実際に、どこでやるのかっていうのと、あとは、応募的なものもどうするのかっていう、多分、前ありました、福祉関係のほうからありました、結局来る人も秘密、やってる場所も秘密、というような形で、やってた中身になんのかな。

もうちょっと詳しく説明を。

○糸賀教育長 補足させていただきます。

こちらが美浦村未来塾については、期間は通年で考えてます。

場所としては中央公民館がやる場所としては一番いいのかなというふうに今のところ考えております。

それでどういった子供たちに声をかけるかというところで、勉強が遅れがちな子供と、あとは塾に通っていない、学習習慣が身につけていない。

実際にどういった視点で、どういった声の掛け方をして、シークレットでやるかどうかというところは、まだそこまでは詰めておりませんが、阿見町でやっているような、本当に秘密裏にやるといいますか、ああいった型じゃなくて、もう少し何ていうんでしょう、フルオープンじゃないんですがそこまで、秘密性は高くしない形で、できればなど考えてはいるんですけども、そのやり方っていうのはまだ、具体的には、私としてまだ、まとまっていないところではあります。

実施回数としましては大体滑り出しになりますので、月に2回程度、開設としては考えてまして、実際に教える先生といますか、指導員の他にサポーター的な人にも参画してもらって進めていければなど。

時間的には大体2時間程度、教える教科については、これから考えていかなければなりません、まずは高校受験を目指していくという、中学生が対象ということでもあります、核になるのは、英語と数学が中心になっていくのかなというように考えています。

○山崎委員 これは教育委員会の定例会でも話題になった中身なので、詳しく他の人も知っておいてもいいかと思って質問します。

まず月に2回とか、そういう形なんです、私としては、できれば学習習慣ですから、習慣が十分身についてない後は勉強のほうの形でやっていく場合には、やはり回数は多ければ多いことと思うんですね。

あと、子供はここに来れば、中学生がここに来れば勉強はできるよと。

基本は自主学習だと思います。

その中において何曜日と何曜日においては、教科ごとに教える人が来るからっていうような形で、そういう形でいかないと、結局、長続きしないと。いう形になると思います。

これは、子供のやれる自主で来るわけですから、オープン的なものの中身で、ここに来れば、勉強もできるし、教えてくれる人もいるよというようなことをきちっと持つていくような形が必要だと。

そのために、今度は教えてくれる人をどうするか、これはあくまでも学校外の活動ですから、そういう点において今度は、村の中で、ボランティア的なもの、これもどちらかと言えば有料ボランティア的なものを、探してそしてやってもらう。

監督とかなんか、いわゆる自主学習、勉強している時の監督的なものも、やはり置いたほうが良いと思うんですね。

そういう意味においても、やはり皆さんに協力をいただきながらやっていくと。

さっき最初に言いましたように、学習の習慣化を目標とするならば、より回数は多ければ多いほうが良いと。というような考えであります。

○中島村長 続いて、小峯委員

○小峯委員 とりあえず今回、中学生対象ということなんですが、中学生について言えば今、山崎委員が言ったようなところ、が基本になるかなと思います。

ただ、この会に、つまり未来塾に参加するような、強制力というか、中学校との連携がないと、まさにその、勉強が好きじゃないからこうなっているわけですから、参加していかないだろうと、いうところでの中学校との強い連携が出てくるかなというふうに思います。

それから、自主学習がなかなかできないから、自分の勉強になっていかないので、その辺の基本的なところの、指導体制、これは、常に、受け入れられるようにしておかないと

いけないということです。

それから、他の自主学習ができる子供たちとの分別を図らなくてはいけない。

ちょっと変な言い方ですみません。

まさに別室で、その本当にわからない子供に対しては、しっかりと学習方法あるいは辞書の引き方から、教えていくという、そういうことやらないとだめだと思います。

それから、特に、山崎委員が言った中で、オープンにすべきだという部分は、これは、本来はみほちゃん広場の内容が、教育委員会でやることであって、秘密でやるのが、向うの仕事じゃないかという話は思っちゃっていて、えっという思いでいるんですが、そうではできなかったという、会長さんの話もあったので、教育委員会として、遡上に載るように話してみましようなんてことは言いましたけど、本来は、みほちゃん広場は、ああいふ内容で展開するのであれば、ここの教育委員会の場で協議しながら、美浦村の子供たちの教育力向上という点でやるべきだったんですね。

ただ、そうも言っていられないということで、今、中学生について、そうした内容での学習困難な子供たちを支援するというのであれば、非常に良い事だなというふうに思います。

村内であれどこであれ、外部の学校以外の人を有料で雇い、そして今言ったような、自主学習ができるような体制づくりに行くまでの、サポート体制をしっかりとっていく、これが重要だと思います。

これが1点目、もう1点は、前の教育委員会でも言いましたけれども、家庭の学習環境はゼロそして、全く、授業に参加できないあるいは、学習習熟度が落ちている、この小学生の子供たちどうするか、ここが喫緊の課題ですよ。

これについて、どうして来年度対応しないのかということが、これ見たときに、残念ではありません。

いっぺんにできないという部分があるのかもしれませんが、何らかの形でこの美浦未来塾と似たような形でできないだろうか。

これもやはり、みほちゃん広場だってそうですけど、もっと、小学校と連携をして、小学校の中で、学習支援の必要な子供たちに積極的に小学校の先生方に働きかけてもらうという、そういうことはできたはずなんですね。

ところが、それを単純な、ちょっとやめておきましょう。

方法論については向こうで決めたことですから、そういう子どもたちを中心に、もしみほちゃん広場が展開していれば、もう少し本来の趣旨に沿った活動になったのかなというふうに支援者の1人として、非常に残念であります。

そういう意味では、今回オープンにして、小学校についてもやっていくことが、もしできるのであれば、この美浦未来塾よりももう少し小さい規模なと思います。

小学生ですから、中央公民館になかなか集まれないだろうから所属の小学校に例えば、

休校の土曜日、などにそういう時間場所を設定して、外部の人が、学習支援に当たるとい
うようなことができれば、これは相当プラスになっていくし、これは中学に上がるまでの
子供たちにとっても相当プラスになっていくと思います。

これを支援する、村の体制という点では、高齢化が進んでいますので、若手の例えば、
高校生大学生、あるいは、安中小なんかでいえば、中学生等も、こうした学習指導に加わ
っておりますので、そういう地域の力を借りながら、展開できれば、来年度とりあえず、
具体的な予算がつかないにしても、何らかの形で、模擬的にでも、模索的にでもできると
うれしいなど。このように思います。以上。

○中島村長 小峯委員の方から話ありましたが、みほちゃん塾ということで、今年は社
協の中で運営をさせていただきましたけども、これは、来年度も多分やると思うんで、今
の状態が今年やったのが良いということではなく、いろんな部分で、なかなか、自分から
取り組めないっていう、人も含めて、今、小峯委員が言われたようなことも踏まえて、も
っとこう広げた部分で、そちらの対応はもっと、厚みを増したものを、来年度のみほちゃ
ん塾は、定員は、今年はオーバーで2カ所で分けてやった事例もありますから、どこで制
限をするじゃなくて、多ければ、それを支えてくれる、サポートしてくる方が、それだけ
出てくれれば、2カ所にかかわらず3カ所でも、4カ所でもそれはいいと思うし、できれ
ば、無償じゃなくて、有償ボランティアみたいな形でやらないと、これは長続きしないと思
うんですよ。

無償だとこんな事言っちゃ悪いんですけども、無償だと責任も持たなくなくなるような
気がするんで、有償だと責任が、ある程度、ね、発生する部分も出てくるんじゃないのか
なというふうに思いますから、そこの辺は有償で、やるべきだなというふうに考えており
ますので、ぜひそこは、塾の開催がどのぐらいになるかという部分があるかと思いき
けどもそれについては、来年のみほちゃん塾の厚みをどのようにするか検討は、これか
らもしていきたいというふうに思います。

今回の未来塾に関しては、高校受験を控えたという部分で説明が教育長の方からもあり
ましたので、その辺の支援をもっと手厚くということで、未来塾という部分を考えていた
だきましたので、その辺は、みほちゃん塾のほうとはちょっと切り離れた高校受験の部分
で、手厚くやろうということなので、その辺も、回数とか、サポートしてくれる、先生方
の部分も踏まえて、ある程度の構成がわかれば、予算的な部分も出せるというふうに思
いますので、その辺も踏まえて、これは、高校受験の部分で支えるということも踏まえて、
3年生だけじゃなくて2年生でもいいですよこれはね、中学生が高校受験を目指してと
いうことであれば、中学3年生を対象ということではなく、1年生でも2年生でも、参加
しちゃだめという部分じゃないと思いますね。

その辺も、含んでおいていただければと思います。

浅野委員もひとつよろしく。

○浅野委員 今年度のみほちゃん広場にも多少かかわらせていただいたんですけども、その食育であったり、いろんな活動であったり、子供の居場所づくりみたいな、位置づけとしてはとってもいいと思うので、でも、あそこに学習支援をつけるのはなかなか難しくって、それと切り離された形で、高校受験に向けてある程度その的を絞って、アピールするっていうのは、わかりやすいんじゃないかなっていうふうに、やっぱり思いますので、シークレットにするというよりは、高校受験に、今さらながらやっぱりね、高校にも行きたくなっちゃったって思うような、学力のちょっと追いつかないお子さんが、まず、ここに来てくれればいいのかというふうには思いますけど、そもそも、勉強が嫌いで離れてた方が、ここに来るにはどうしたらいいかなというふうにちょっと。

そこが思うんですけども、高校受験に向けてある程度そういうそれを打ち出すことで、そういった目覚めてくれるお子さんから、とっかかるみたいな形で、そういう先輩見て、じゃ1・2年生でも、そういった取り組みをしたいというお子さんが出てくればいいんですけど、正直言って現状を申し上げますと、部活が終わった美浦中3年生、さあ勉強になるかという、全然なりません。まずは、遊び呆けます。ゲームに勤しみます。んで体育祭があって、まだ今、桜杏祭とかに取り組んでいてそろそろ、10月ぐらいになってやっと、大変だと思いはじめたころには、もう間に合わないんじゃないかみたいな時期になってしまいうんですけども、それでも、そういった時期から、取り組んで成果を上げるお子さんもいらっしゃるの。

ぜひ、そういった、言葉悪いですけど、ちょっと点数のね、至らないお子さんにも、それをきっかけとしてちょっと学習に取り組むということで、何か支援ができれば、とてもありがたいかなというふうに思いますので、ぜひその月2回というのはちょっと、何もできないと思いますので、せめて週1回、週2回、何とか、高校受験になんて謳うならば、なおさらですね、せめて週1回は、お願いしたいと思います。

月2回では何の成果も挙げられないと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

○栗山委員 私も小峯委員が言われるように2面性があるって、学習環境が家庭で持てない子供たちもいらっしゃいますし、またその学習する習慣が、ここでいうと、中学校3年生になっても、身につけてないという子もいると思うので、それぞれのフォローができる環境づくりというのが、必要になってくると思いますので、その点は、自主学習という方向をまず基礎として、それにプラスアルファそういったサポートの方たちが、各自の能力だったり、その子たちの何ですか、適正見て判断していくっていうのが必要になっていくと思います。

あとは、意見が出されたようにちょっと、もうちょっと頻度を上げていかないとなかなか習慣化というか、あとはその対外的にもちょっと、周知は難しいのかなと思いますので、もうちょっと、スパンを短くしていただければなと思います。

今回中学生からということになると思うんですね、将来的には、小学校からの子たちにも、何かしらのこういったもの等、うまく段階的に小学校中学校と、続いていけるような、継続事業となっていくようにしていただければと思います。

以上です。

○中島村長 はい、山崎委員。

○山崎委員 未来塾に関しては、皆さん意見全部出てきたと思うんです。

私のほうからは、未来塾にも、今、話題になっているのは、平日とか、普通の日なんですね。

これがやはり夏休みとか、あとは、冬休みとか、そういうようなところでの受け入れ態勢をどうするかという発展の形、そういうところも詰めていただければと思うんです。

なぜかという、部活終わるのはみんな夏なんですね。その夏休みの3年生あたりは1番最初にこう、切りかえてやっていかなきゃなんない時期なので、そういうときの受け入れ態勢を学校ではなくて、村でも、作っていくのが一つ大事ですし、あとは、子供たちが目的をきちんと持ってくれるかどうか。

ですからそのところは、学校とよく相談をして、自分は何をしたいのか、どこに行きたいのか。そういうようなところをはっきりと持たないと、子ども等は勉強しないです。

はっきり言えば、私たちもそうですよね。

ですから、目的意識をつけるためにどうするかっていうところも、学校とよく相談して、来た場合の体制としては、その目的をきちんと押さえた勉強をしているかどうかというように子供たちを見て、村としては、先ほど言いましたように、教科によって、何曜日は教科で先生が来るというような場合にも、それは学校に伺ってもしくは、全体的な計画書的なものも渡してと、というようなことまで行って、学校と協力をしながらやっていくということが非常に大事だと思うんですね。

あと、小学校のほうのみほちゃん広場のほうなんですけど、私は基本的には、これは、歩ける距離でやらなきゃいけないものだと思います。

いろいろ話を聞いてやった場合、子供たちが、家を留守にする、今、多分みほちゃん広場の場合、みんな送られて来てんじゃないですか。

そう、やはり基本的には歩いて行ける距離、すぐに家に帰れる距離、親が迎えに来てても、自転車もしくは歩いてても迎えに来れる、そういうのが基本的になると思うんですね。

学習に関しても、いわゆる一つの部屋があると言った場合には、各地区の例えば、木原だったら、農林漁業者トレーニングセンター、学校はなかなか使えませんから、安中の場合だったら安中地区多目的研修集会施設とかありますよね。

あとはこちらで大谷だったならば、興津のふれあいセンターとかを利用しながらやっていくような形、これは多分、福祉のほうが担当ですので、教育委員会の方では口が出せな

と思うんですけれども、いわゆる、いざ引き受けた場合の学習面とか、そういうものの場合には、教育委員会にも、話が来ると思うんですね。

ですから、全体的に見て、村全体で取り組むならば、やはり村の三つの小学校分、それをうまく手分けしながら、もしくはもうちょっと細かく目に分けられれば、小まめに分けたほうがよりベストだと思うんですね。

そうすれば村全体で、今度は子供をみんなで育てようという気持ちが、各地区ごとにも醸成されていくと思いますので、そういう点も頭に置きながら、これからの発展的な形を考えなきゃいけないと、というような形で、思いました。以上です。

○中島村長 はい。

それでは、各委員からいろいろ意見をいただきましたので、まず、目的の中では話はしてございますけれども、月2回という、教育長のほうから話がありましたけれども、それを最低でも週1回という話がありました。

教育長に、最後にまとめていただきたいと思います。

○糸賀教育長 はい、来年度滑り出しというところと、実際どのぐらいの協力者の方が、お願いできるかというところを踏まえて、2回というところで考えておりましたが、今のお話を受けまして、頻度が週1回、確保するような形で、事業のすき間、つくって行ければなと思います。

あと、夏休みと冬休みの対応ですね、こちらについても、頻度を上げるとかやり方をどうするかというところが、これも将来的な話として、課題として考えていきたいと思いません。

あとは小学生にもって話もありましたが、まず、中学生からやらせていただいて、将来的には、各学区で、木原大谷安中、という、各小学校の子供たちも対象にできるような形で発展的にやっていければと。それが最終的な、到達線にはなると思うんですけれども、それは、今後の高校生の課題といたしますか、という事を踏まえてやっていきたいと思いません。

○中島村長 はい、ありがとうございました。

そういうことで、一応、来年度まずは、小学校の部分ではなく中学校の、高校受験を対象にしたという部分の中で、未来塾を立ち上げていきたいという、部分でございますので、各委員とも、これについては、回数をもっとふやしてもいいという意見はありますが、まずは、月2回を、週1回ぐらいは最低でも、という部分で、教育長から話がありましたので、ぜひ、回数については、その先、増える可能性も、視野に入れながら、まずは、立ち上げて、夏休みからやるのか、それ以前からどうするかっていうことも踏まえて、その辺のこれを支援してくださる先生方が、ある程度固まり次第、学校の方との連携も入れながら、中央公民館での実施の構想でありますので、その辺は、今日は生涯学習課長が来ておりますから、来年度の固まった時点で、来年度のある程度のスケジュールの中に入れ込みができればというふうに思っておりますので、ぜひ回数については、最低でも週1回を目

途にちょっと、プログラムを作らせていただければというふうに思います。

そういうことで、来年度の立ち上げということで、来年度の予算の中で説明できるようなものを、次長のほうもひとつよろしく考えていただければというふうに思います。

それでは時間もあれなんですけど、最後の訪問型家庭教育支援についてということで、ここにも書いてありますけども、保護者の教育力を高めるっていうのは至難の技かなぁ、

子どもはある程度、教え方、または学校に来た中で、ある程度の取り組みが出来るんですが、保護者とはなかなか接する時間もないし、家庭の中の状況もわからない部分があるんですが、これが1番難問かなというふうには思います。

ただ、これも、どういうふうにして展開していったほうがよろしいのか、まず、山崎委員のほうからお話をいただければと思います。

○山崎委員 これは非常に難しいと思います。

なぜかっていうと、本当に、保護者のほうから、支援してほしいと思ってるかどうか。

そこが1番問題なんですね。

いわゆる、こちら側のサイドとしては子どもを見れば親がわかりますので、子どもを見てそして、親の方に支援に行こうといった場合に、話に行こうといった場合、どんな態度で来るのかなっていうそういうところがありますね。

となると、1番の踏み込み方はどうするかっていうと、まず、学校の先生が多分みんなしてるんですね、中に入って行って、訪問したりなんかして、それ以外で訪問していくといった場合には、正直なところ問題のある子供のうちに行くわけですから、その家のところをよく知っている人、いわゆる民生委員さんとか、あとは周りのいわゆるよく知っている、大人のほうからの情報を集めて、そこから仲よくなって行ってっていう形を、踏まえていかなないとなかなか、本人にも遭えないという部分になります。

ですから、親御さんに、今の段階にいると非常にこの後、辛くなりますよっていうことをしっかりと教えるっていうか、わかってもらう。

そのための、仲よくなる人は誰かなっていう人ですね、学校の先生以外それを作った場合に一緒に入っていくとなると、やはりチームをつくっていくということが大事ですよ。

福祉関係も必ず入ってきます。学校関係でも教育関係でも、あそこね、いますから、そういう専門が、そういうなときに一緒になって最初の段階のときに、うまく入れるような形で一緒に話を出来る、そういうような体制をつくって、そのためにチーム、というものも大事だっていう、その地区をよく知っているのは民生委員さんですけども。

それ以外にもう1人、よくこういうときに話して、子供って話してたら親と話したら親がダメなんだよなって、話を聞いてくれないんでなっていう時には、親戚頼ったりしてなんかしてやったときもあります。

そういうのを踏まえて、最初の一步が大事だと思いますので、その一步を間違えないた

めにどうするかっていうのをみんなで相談していかなきゃだめだと思います。

○小峯委員 非常に重要な取り組みだと思います。

ただいま山崎委員が言うように、極めて難しい。

ただ、やはり、チーム編成をして、そこに相談員であるとか、民生委員であるとかいろいろなスタッフが入って、今やっているような教員任せ、担任任せの方法では、厳しいところですね、木原小をはじめ、その日、欠席した、家庭には必ずすぐ連絡入れる。

連絡とれなければ、家庭に行って行ったこと、通信文を入れて、帰って来るといような地道な活動やってるわけですけども、これは全部、先生方の負担になってしまっていて、そして効果としてはどうか。

その辺考えたときに、やはり、もっと相乗効果があるように、学校教育課と、福祉課が協力しながら、専門員を、何人か配しながら、協力してやっていくことが、非常に重要だと思います。

この訪問型の家庭教育支援が充実していけば、もう少し、今の厳しい状況が改善できるのかなというふうに期待できますので、ぜひその辺の方向性を模索していただければと思います。

○中島村長 浅野委員もよろしくお願ひします。

○浅野委員 大変難しいことでちょっと漠然とわからないところもありますが、希望的に思うのは、やはり子育てを本当に1歳、3カ月健診とか1歳児健診とかそういうところから顔見知りになって幼稚園保育所とかで親しくなつての、いわゆるママ友ですかね。

そういった繋がりって、とても子育てに、重要な繋がりだと思うんですけども、そういったところで、孤立しがちな、型とかをできるだけこう、周りでサポートしていくような、そういった、繋がりが出ていけば、いいんじゃないかなというふうに、そこら辺に希望を持って、それが小学校とかの保護者のPTA活動なにかにもつながっていけるような、そういったこうちょっと未来を描きたいと思います。

そこからどうしてもね、よそから転入していらっしゃったご家庭とかも、あつたりして難しいと思うんですけども、そういったところにちょっと支援をするような形で考えていただけたらなと思います。

○中島村長 じゃ、栗山委員よろしく。

○栗山委員 そもそもなんですけども、今年度の予算見ると、子ども子育て会議の費用が計上されたのが11万位で、昨年度は新制度の改正があつて、会議が何回か行われたと思うんですけども、根っこの部分で、方策何かをするには、そういったニーズが、何が必要なかっていうのを、もうちょっと見定めても、よろしいのかなと思いますので、その中で、多分、11万だと年1回くらいの会議だと思うんですけども、その中でちょっとなかなかそのニーズに対して、フォローしていくっていうのは難しいのかなと思います。

こういったことをやったとしても、それを見直ししたり、その良し悪しを判断したり

するっていう場が、広がってくるかなと思いますので、まずは、まだ、この子ども子育て支援事業計画もつくってまだ2年程度、出来てから2年目ということで、まだまだ中身を精査する余地というか、これを改善していくところはあるかなと思いますので、そういったものも、その根っこの部分をもうちょっとこう、いろいろと何にターゲット絞っていくのとか、美浦村に住む子育てしていく方たちが、どういったものが必要なのかっていうのを、見たり聞いたりっていう必要性もあるかなと思いますので、同時進行でよろしいかなと思うんですけども、そういった根幹の部分も、それ以上にこれからこのこういった計画がありますので、必要だと思いますので、そういったものも進めていきながら、同時進行で、こういった施策のほうも進めていただいで、その中で必要性だったり、また違ったものが出てくるかなと思いますので、同じように、そういった施策として進めていただけたらと思っております。

○中島村長 はい、4人の委員のほうからいろいろ意見をいただきましたけども、これについては、学校側がまず察知して、ある程度の対応、保護者と学校は、ある程度こうやってきた部分があるかと思えます。

そういう意味でちょっと田組先生から、今までの学校での取り組みの一端があれば、ちょっと、お聞きしたいと思えますけども、

○田組室長 学校の先生方は本当によくやってくださっていると思えます。

それで、やはり今少し家庭的にやっぱりその教育力ということで、いろんな諸事情でちょっと厳しいご家庭が村内にあるっていうのは事実です。

そういった中で、不登校生徒であったりとか、学校に來れなくなっている生徒の支援ということで、本当に適応指導教室の先生方が関わっていただいたり、それから福祉のほうで関わっていただいたりということで、先ほど山崎委員さんのほうからもありましたように、教育長のほうも、だからその福祉とそれから民生委員とそれから相談員、そういった形で地域を交えて、そういったチームを組んで、少しそういった家庭に働きかけることができないかということで、結局、やはりどうしても学校だけでは厳しい部分もありますし、当然、先ほど小峯委員さんも言ってくださったように、当然、残っている子供たちがいるっていうのは、学校では現状なので、そういった部分で当然つなぎの部分であったり情報交換の部分っていうのを学校のほうでやりながら、少しチームも、支えてもらえると、学校現場としても本当にありがたいのかなと思っております。

そういった点で、ちょっと個別対応というような形で、当然そのご家庭のほうで、ウエルカムの状態になるまでっていうのはなかなか時間がかかったり、当然その間には、先生方にも協力していただく部分であると思うんですが、逆に本当に地域の民生委員さんだったり、その親戚の方だったりっていうお力を借りながらだということかなと思っております。

ですので、本当に先ほど、地域の力をつけていう浅野委員さんのほうからも力強いお言葉がありましたので、多分これ、それぞれの特に美浦未来塾であったり、訪問家庭教育支援

事業に関しては、本当にここにいる委員さんのお力を借りながら、きっと、実現させていけるようになっていければいいのかなと思っております。

○中島村長 山崎委員。

○山崎委員 問題は、孤立しがちな家庭が1番問題だと思うんですね。そうすると孤立しがちな家庭ということは孤立しがちな母親っていう部分もあると思うんですね、子供はどっちみち母親のほうに入りますので、そうしますと、おなかに赤ちゃんがいるときにも、健診とか何かやっていますよね。村全体でやってるのかな、あと3歳児健診とか。

そういうときに、ほかの人の意見を聞くっていうか、そういう場面はつくっているのかな。

ほかの人の意見を聞くような、そういう要望を母親に持たせるためには、どうしたらいいかなと思ったんですよ。

その場合に、やはり村全体でかかわっていく場合に、1人ではないんだよというような、そういうなところも、村民に植えつけ 特に母親に植え付けていくっていうことが大事なのかなと。

そのために、村全体としては何ができるか。それでも孤立したところに対しては今までの話になると思うんですが、ですから、前段階として村としてどういうふうに取り組んでいくか。

やはりチャンスを狙いながら、人の話を聞けるような、村民をつくっていくっていうのは、ことも大事かなと思って話を最後させていただきました。

○中島村長 はい、それぞれの委員さん、また田組先生のほうからもいただきましたけども、これがやっぱり1番難しい問題かなというふうには思います。

本当に、親が変われば子供も変わるんですけども、どうもね家庭環境という部分が1番、大事な部分なんですけども、なかなか、人の家庭まで変えるっていうのは物すごい労力、また体力も必要かなというふうには思います。

福祉の部分から関わり合いをもってっていうのは、一つ、1番大事な部分なんですけども、ただ孤立しがちな親はなかなか心を開いてくれない部分がありますので、その辺が、県としてもなかなか、課題が大変だということで今回、県のほうもこういう家庭支援という、部分が出てきている、部分だと思いますので、模索しながらでも、やっていかなくちゃならないし、これについて、教育長のほうが、こういう教育支援のほうで、教育長を頭にして、学校教育課を含めて、対応せざるを得ないというふうには思いますので、また、最後に教育長に振るんですけども、教育長のほうから一つ。

○糸賀教育長 はい、こういった大変な家庭への支援っていうのは、茨城県では20数年前から、地域ケアシステムっていう、福祉施策としてやってきたんですね、やはり、問題のある大変な家庭に対して、民生委員、保健師、地域の人がチームを組んで支援していくというような施策を20年来やってきています。

実際今もやってはいるんですが、なかなかこれが、各自治体まで下ろしていくとできるところできないところがあると、そういった中で、今、今回のこの事業は、県の教育長のほうでも、こういった取り組みを始めたいという背景がありました。

全国的にも、こういった家庭教育支援チームの取り組みは本当に少ないそうです。

ですから、委員の皆様おっしゃってるとおり本当に難しい取り組みということのようです。

いろんな、学区でも大変な家庭が多いというような現状を耳にすることも多いわけで、何か一歩踏み出さないといけないのかなと思います。

そういったことで、先ほどお話がありました、最初の一步を間違えないように、非常にデリケートな問題もありますので、そこを慎重に急がずゆっくりとやりますが、ただ、急ぎ過ぎずにですね、やっていきたいと思います。

支援チームに入ってもらいたいメンバーとしては、複数で活動してもらうことが前提と考えてまして、適応指導教室で今やっていただける先生とか、民生委員児童委員、あと1歳児健診の話も先ほどありましたが、やはり保健師ですね。

小さい子供の状態からその家庭を見ているというところもあるんで、保健師も加わってもらってチーム編成して、それぞれの家庭のほうをさせていければなというふうに考えてます。

今、いろいろなお話いただきましたので、そういったところ踏まえて、こういった事業を組み立てていくときには、チームのメンバーとか、参加いただく団体も参考にさせていただいて、一歩踏み出させていければなと。

○中島村長 家庭教育の支援については、県のほうではもう20数年前から福祉関係のほうで取り組んできたということでございますけども、今回はもう、県の教育長部局でこういうことも、入れてやっていこうということで、全国でも教育関係のほうから、こういうふうな部分で取り組むというのは、少ないそうなので、ぜひ、茨城県の取り組みを各自治体のほうでも、一緒になって取り組むということでございますので、先行は本当に難関ではございますけども、各課連携をとりながら情報を集め、また、学校からのいろんな情報もいただきながら、先ほどもお話がありましたように、地域で子どもを育てるという視点に立って、いろんな方の協力をいただきながら、福祉でもこういう家庭が少なくなる。

また協力をいただけるんだなというふうな、思いを持っていただける家庭が出てきて、いろんなところに、参加をしていただけるっていう体制が、また、それに気づいていただけるような、活動をしていければ、こういうふうに孤立をするような家庭が、少しでも減っていただけるのかなというふうに思いますので、29年度は、県のほうの事業でもございますので、村としても、併せてこれも事業として進めてまいりたいというふうに思っております。

色々3つ程、今日は重要な部分でお話を聞かさせていただきましたけども、次年度今まで

に進めてきた事業プラス、今回このような事業も入れていきたいということでございますので、各委員の皆さんにもご支援ご協力を賜りたいなというふうに思います。

その他に入りたいと思いますけども、その他の中で、また委員の方から美浦村の総合教育に関して、ご意見等をいただければ、お伺いをしたいと思います。

○山崎委員 その他なんですけども、交流館の中での教育委員会での役割っていうか、そういうものの中身的なもの、どういうものがあるのかっていうのは、この間ちょっと担当からお聞きはしたんですけども、実際にはあるのかどうか。

どのくらい入れるっていうか、あんのかなってというのが、疑問なんですけども。

○中島村長 地域交流館、来年の3月26日を目途にオープンに向けてやっておりますけども、子育て支援の方は、3月の内じゃなくて4月の3日が、年度替わりの月曜日が3日になりますので、その時からというふうに、なろうかと思えます。

3月のうちに態勢はある程度つくりまして、保育士さんも含め、村の担当も、学校教育課の範囲の中、経営的な部分は物産館も入りますから、学校教育課の子ども子育てのほうと経済課のほうの物産館ということになっており、直接、村が運営をしていくのは、子育て支援センターの方で今まで、支援6事業ぐらいありますが、それが全部一括して、今度の交流館のほうでということになってきますので、子ども子育ては福祉介護課から、学校教育課のほうに全面的に、移管をされていますので、当然皆さんにも、ご協力をいただかなければならない部分がたくさんあるかと思えます。

そういう意味でも、この体制をつくることについては、茨城県の中でも民間と行政のこういう施設が一緒になって、地域にできるというのは初めてということでございますので、これについては、地方創生の中の、小さな拠点づくりということで、内閣府のほうから採択をされた経緯もございますので、国に対しても、結果どういうふうな事業として展開しているのかなっていうのは、報告もしていかなければならない部分もあるんだろうというふうに思いますので、新しい施設で、その運営が多分、全国に紹介できるような部分になっていくというふうに思います。

是非これには、村も、物産館の売り上げは別にどうのこうのは関係なしに子育ての部分では、意外とよそから注目を浴びるような、されるようなものに、作ってきたいというふうに考えております。

いろいろとセキュリティーのことも含めて、簡単に、まるっきり知らない方が入れるというようなことにはできないで、登録した人がこういうパスを持ってやらないと、中に入れないっていうな部分も、作ってきたい。

いろんな事件が起きておりますけども、登録をされた方以外は、簡単に入ってはいけないということになっていきます。

2階の部分の片方の高齢者の集う部分については、これはもう、オープンで、誰が来ても入れるというようなことになろうかと思えますけども、その辺の利用の仕方は、これか

らもっと詰めて行って、今までにないような部分が、多分美浦村の中にでき上がってくるだろうというふうに思いますので、いろんな意見をいただければ、運営の方法も含めて、今のところ週1回の休みぐらいにしようかという話が出ておりますけども、まだ、固定したものでございません。あと運営時間も午後6時、なのかというふうな部分と、その辺もまだ詰め切れてない部分がありますのでこの後、その時間的な部分も詰めながら、できればなというふうに思います。

いろんな意見をいただいて、それを参考にしながら、運営の中に反映をしていきたいというふうに思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。

○山崎委員 今の村長さんの話聞いて、多分美浦スタイルというのをつくっていかねばダメなんだなというような、そんなニュアンス思ったんですが、あとは、この前の定例会でも話したんですけども、社会教育関係も、あそこの中に入るのかどうか。

それはどういう意味かっていうと、交流館ということは村民の交流、年齢の高いほうから、下までありますけども、その交流と、あとは、実際に物産館ができるということは、そこを通った村民以外のその交流というような場合が入った場合に、美浦村のいわゆる特徴的なものを出したり、美浦村を知ってもらおうとかそういうような中身も多分入ってくると思うんですね。

その中での社会教育的なものは、やはり少しずつ入ってくるのかどうか。

そういうこともちょっと、気になってたもんですから、あえて質問させてもらったんですけども。

ですから、交流に関しては村民と、あとは来る人、特に村外から寄ってくれて美浦村を知ってもらおうという、そういうような部分を大事にしていかなければ、だめだと思うんです。

そういうことにおいても、いろんな村民の意見を聞いて進めてもらって、特に教育委員会として、私個人の意見ですが、社会教育的な部分、やはり美浦村の中の文化財的なものとか、そういうなもの。

紹介も公民館に来るよりはあそこで多分、紹介という形が出てくると思うんです。

あそこが1番目立つ丘だし寄りやすいところですので、そういう意味も含めて交流館の運営的なものもやっていただければ、ありがたいなというような形で考えています。

○中島村長 物産館と、1階に情報館というような、パネルとか大型スクリーンで今、村がどういうことをやっているのかっていうものも含めて、そういうものも発信できるようなものを建物内に、フロアのところに作ります。

2階建ての2階の半分ぐらいは一部野外の部分なんで、ちょっと大きい子供らは自由に遊べたり、何かする部分もありますけども、いろいろ、議会のほうからは意見が出て、足湯も作れとかね、いろんな意見がたくさん出てきたんですけども、不特定多数の方が自由に足湯っていうことになる、やはりそこの衛生面が1番危惧されるんであって、議会に

は、同じ施設の中で、要するに、足湯のほうで、レジオネラ菌とかいろんなものが発生したときには、子育て支援施設もその同じ施設の中にあつたときに、それはちょっと、衛生的に、よくないものが出たときには、子育て施設にも影響が出るから、できるだけそれは避けて、もしやるのであればこっちの健康増進課のわきにつくれるようにして、そこならば、健康増進課なんで、子育てにはそうそう影響はないからという部分でお話ししたんですが、どうしても、いろんな人が、高齢者まで一緒に使う施設なんで、来てもらうためには、そういうものが必要じゃないのかって意見が出ました。

ところが、たまたま潮来の道の駅で、足湯をやってて、もう、余りお客居ないんで、足湯は閉鎖になりました。

温泉地でかけ流しをして、足湯を作ってるようなところでも、そういう不衛生的なレジオネラ菌とかってというのは、発生しないとは言い切れません、ていう話をいただいているんで。

循環型でやったら、特にそういうものが可能性としては、大いにあるかもしれないという話があつたんで、議会の申し出があつたんですけど、こちらのほうとしては、今のところ、早々には、やりたくないという話で、そのこのとこまではいっておりません。

集まっていたくためにはいろんな施策をするべきなんでしょうけれども、なかなか評判が悪いようなものが出るような、事案はつくりたくないんで。

その辺のところは、食事をしたり何かして、いろんなことをする部分には、良いんですけども、なかなかそのリラックスした足湯は、すばらしいものがあるんですけども、負の遺産も抱えているんで。

その負の遺産が出るようなものは、当初からはね、やりたくないっていうのは、ちょっと防御の形になるんですけども、その辺はちょっと、議会のほうにもご理解をいただいて、何年かして、定住化して決まった部分で今度足湯をつくりましたからって、また新たに人が来るのかもしれないけども、そうじゃなくて別棟にそういう足湯とか、お風呂とかってやっていただければ、もっと人がそこに集まっていただけのかなというふうに思うんで、子育てと一緒にね、なかなか私は余り賛成できないということで、ちょっと。

議会からもいろいろ言われているんですけども、今んとこ誇示してます。

チャイムが鳴ってしまったんですけども、今日の総合会議、こういうことで、いろいろ意見いただきましたけども、教育長最後に締めていただいて、事務局に渡していただければ。

○糸賀教育長 いろいろご意見、教育委員の皆様にはありがとうございました。

いただいた意見をですね、来年度の新たな取り組みの中に、できるだけ参考にさせていただきながら、組み入れさせていただいて、事業の枠組みというのをこれから、事務局のほうで検討していきたいと思います。

ありがとうございました。

○飯塚総務課長 では、長時間にわたり大変ありがとうございました。

この会議は、必要に応じて開催が出来ることとなっておりますので、また必要に応じて開催をさせていただきたいと思います。

午後0時5分閉会